

# 自己決定の場面を生かした修学旅行

栃木県宇都宮市立国本中学校

教諭(3年主任) 生田目 薫

教諭(研究主任) 岩崎 昌美

、はじめに

、テーマ設定の理由

、修学旅行までの取り組み

、修学旅行の取り組み

- 1、事前学習から事後のまとめまでの活動日程
- 2、修学旅行の行程
- 3、テーマに基づく活動の内容

、まとめ

- 1、生徒のアンケートの結果から
  - (1) コース別活動について
  - (2) 班別活動について
  - (3) クラス別活動について
  - (4) 奈良の宿舎について
  - (5) 京都のホテルについて
  - (6) 『お小遣い大作戦』について
  - (7) 服装について
- 2、保護者のアンケートの結果から
  - (1) 活動について
  - (2) 発表について
  - (3) 宿舎について
  - (4) 『お小遣い大作戦』について
- 3、成果と課題

、はじめに

本校は宇都宮市の北西部に位置し、国道119号線（日光街道）が南北に、北部から西部にかけて国道293号線が通り、その中間に国道の間道としての新里街道が地区の中央を通っている。

日光市への続く今市市と宇都宮市を隔てる鞍掛山を背景に本校の周辺は、緑豊かな環境に恵まれており、純農村地帯は新里ネギの産地として有名である。学校給食の食材として納入が可能な生産農家からは、ねぎやネギニラなどの野菜、お米などを納入してもらい、地産地消を積極的に導入している。

日光街道沿いは宅地造成が進み、近郊市街地へと変貌している。保護者の職業別調査によると、農業経営者は地区全体の4%に過ぎず、会社員等勤めにでている人が60%に及ぶ。今後もさらに、住宅区域が広がるものと思われる。

生徒数は全校生349名、1学年が111名で4学級、2学年が113名で3学級、3学年は125名で4学級、徐々に少子化の影響が現れてきている。保護者は、学校教育に協力的で、体育祭・学校祭・ボランティア活動・本校教育の特色でもある茶摘み等は積極的な参加がみられ、親子のふれあい行事となっている。

校庭の周りには、お茶の木が垣根となっており、毎年5月には全校生徒による茶摘みを行っている。地区内から講師を招き、茶の手もみ製法を教えてもらいながら製茶し、全校で新茶を味わうとともに、地域にある高齢者福祉施設や日ごろお世話になっている多くの施設に配っている。



## 、テーマ設定の理由

本校の教育のめざす生徒像は、人間尊重の精神を基盤に、自主性・創造性に満ち、やさしい心とたくましい気力・体力をもった豊かな個性と人間性を培い、社会の発展に貢献できる人間を育成するため、次の目標を「めざす生徒像」として設定している。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 健康で意志の強い生徒</li><li>2 自ら学び、創造力のある生徒</li><li>3 心情豊かで思いやりのある生徒</li><li>4 勤労を愛し、実践力のある生徒</li></ol> |
|--|

さらに、教育目標を達成するために次の重点目標が設定されている。

- 1 自他の生命を尊重し、健康でたくましく生きようとする態度を養うとともに、自然や物を大切にし、環境保全に努めようとする態度を養う。
- 2 学習や生活に必要な基礎的・基本的な学力を身につけ、常に学ぼうとする意欲や態度を養う。
  - ・ 日々の学習活動の中で生徒の基本的な学習態度や生活習慣の育成に努めながら、学習に対する興味や関心、自ら学ぼうとする意欲や態度を養う。
- 3 自ら考え、判断し、主体的に行動できる能力や態度を養う。
  - ・ 一人一人の発想や考え方を大切にするとともに、学習過程を重視した生徒主体の学習指導を展開し、思考力、判断力、表現力を伸長する。
  - ・ 主体的・体験的学習活動の中で、自ら課題を見つけ、自ら解決していこうとする態度や能力を養い、活動への意欲や実践力を育成する。
- 4 人間的なつながりやきずなを大切にし、感謝の心や奉仕の心をもって共に生きようとする態度を養う。
- 5 社会規範を理解し、積極的に社会に貢献しようとする態度を養う。
- 6 わが国や外国の文化を理解し、異なる文化を認め、受け入れ、ともに大切にする態度を養う。

この中でも2と3の項目が特に重視すべき点となっている。

また、学校行事における旅行・集団宿泊的行事のねらいは、「平素と異なる生活環境において、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むこと」とある。

本校の生徒の実態を考えてみると、素直で明るくあいさつなどがよくでき、学校行事などにも意欲的に取り組み、多くの生徒が「学校が楽しい」と考えている。言われたことに対しては不平を言わずに取り組めるが、主体的に行動することが苦手な生徒も多い。また、近年の社会の変化とともに、責任感に欠く行動や、責任を転嫁する傾向、自己中心的な考え方など、集団生活における行動様式の未熟さ、規範意識の低下の傾向が見られるようになってきている。

このようなことから、生徒が意欲的に修学旅行についての学習に取り組み、生徒間だけでなく、生徒と教師、生徒と保護者などの関係を深め、社会のルールやマナーを身につけながら、中学校生活の最高の思い出となるように学習計画を立てた。そして、この学習計画の中に、思考力・判断力・表現力等を養う問題解決的な学習を取り入れ、創造的な知性や技能を育てたいと考えた。また中学校最終学年として、卒業後の進路を主体的に選択することができるためのステップとして修学旅行をとらえ、自らが考え、決定していく場面を取り入れ、本テーマを設定した。

、修学旅行までの取り組み

学 校 行 事	目 的
<b>冒 険 活 動</b> 平成 13 年 7 月 3 日～ 6 日 うつのみや平成記念 子どものもり公園 宇都宮冒険活動センター	1 ,豊かな自然の中で「自ら遊び、学び、きたえる」体験学習を行い、この体験を通して、自然を楽しむとともに自然に対する理解を深める。 2 ,宿泊などでの共同生活を自主的・主体的に行うことによって、協力することの大切さやきまりを守ることの重要性を体得し、望ましい人間関係の確立や集団生活の向上を図る。 3 ,自他の健康・生命の安全に留意するとともに自然保護や公德道徳に対する関心を高める。 4 ,自然の中での冒険教育を通して友情を深め、中学時代の楽しい思い出を作る。
<b>社会体験学習</b> 平成 14 年 11 月 18 日～ 22 日 宇都宮市内の事業所	1 ,地域における人とのふれあいを通して、共に生きる心や感謝の心をはぐくむ。 2 ,社会体験活動を通して、主体的に自己の在り方や生き方を見つめる。 3 ,学校を離れた地域社会の中で、人間関係をつくる力を伸長する。
<b>自然体験学習</b> 平成 15 年 1 月 28 日～ 29 日 日光市 光徳クロスカントリー スキー場	1 ,冬季の厳しい大自然の中で、日常生活では体験できない雪上活動を行い、ウィンタースポーツの楽しさを体験するとともに、心身の鍛練を図る。 2 ,宿泊を伴う集団生活を通して、望ましい人間関係をつくとともに、集団生活における規律・責任・協調・友愛・奉仕の精神を養う。 3 ,立志を迎えるにあたり、中学 2 年生としての自覚と将来への志を持つ。



、修学旅行の取り組み

1、事前学習から事後のまとめまでの活動日程

月	日	曜	活動内容
2	6	木	学級での話し合い(ビデオや資料を使つての京都・奈良についての学習)
	13	木	第1回実行委員会(組織編成・日程・活動計画についての話し合い)
	18	火	事前学習(京都、奈良の地理・歴史)
3	6	木	第2回実行委員会(日程の確認・テーマについての話し合い)
	13	木	事前学習(京都の観光地・奈良の観光地・アンケート)
	20	木	学級での話し合い(京都方面クラス別活動・奈良方面コース別活動・夜の散策について)
4	9	水	第3回実行委員会(京都方面クラス別活動・奈良方面コース別活動について夜の散策について)
	16	水	事前学習(奈良・京都方面班別活動について)
	23	水	学級での話し合い(旅館、ホテルの部屋割・新幹線、バス座席決定)
5	8	木	事前学習(『お小遣い獲得大作戦』・きまり・持ち物・服装の検討)
			第4回実行委員会(しおりのまとめ)
	15	木	事前学習(きまり・持ち物・服装の確認)
	20	火	第5回実行委員会(しおりのまとめ)
	22	木	しおりファイル読み合わせ
	26	月	事前指導(学級・学年)
	27	火	<b>修学旅行</b>
28	水		
29	木		
	30	金	事後指導(学年・学級)
6	9	月	まとめ(個人ファイルの整理・お小遣い決算報告)
	12	木	まとめ(ポスターセッション用ポスター作り)
	24	火	まとめ(ポスターセッション発表練習)
	30	月	第6回実行委員会(保護者会発表について)
7	7	月	保護者会での発表リハーサル
	9	水	保護者会での発表(アンケート実施)

生徒の自己決定の場面を取り入れたところ

2、修学旅行の行程

**第1日目 5月27日(火)**

JR宇都宮駅集合(6:30) 宇都宮発(7:00) 京都着(10:53)

【奈良方面コース別活動】 奈良・旅館着(18:00)

**第2日目 5月28日(水)**

奈良・旅館発(7:15) 【奈良・京都方面班別活動】 京都・ホテル着

(8:00) 【夜の散策(京都タワー・京都駅)】

**第3日目 5月29日(木)**

京都・ホテル発(8:00) 【京都方面クラス別活動】 京都発(12:27)

宇都宮着(16:27) 解散(16:45)

### 3、テーマに基づく活動の内容

#### (1) 活動全般

修学旅行の行程における、生徒の活動を3日目から決定していった。3日目は、帰りの旅程を考え、クラスごとによる活動とし、各クラスごとの話し合いで、以下のような活動に決定した。

1 組	銀閣寺	金閣寺	京都駅
2 組	八つ橋庵(八つ橋作り)	金閣寺	京都駅
3 組	北野天満宮(合格祈願)	金閣寺	京都駅
4 組	大徳寺大仙院(座禅・抹茶)	金閣寺	京都駅

次に、修学旅行第1日目の、京都駅から奈良の宿舎までの行程を決定することにした。事前学習で奈良方面の観光地を調べた後、生徒に、どこを訪れたいかのアンケートを取った。その結果をもとに、コースを作成し、この中から自分の行きたいところを選択させ、最終的には以下のようなコースで実施することになった。

A	バス	法隆寺	東大寺・奈良公園散策	39名
B	バス	平等院	法隆寺 東大寺	60名
C	近鉄	飛鳥方面レンタサイクル	東大寺	14名
D		自由行動		12名

この後、クラス内で4人から6人の男女混合班を編成し、班ごとにクラス別活動とコース別活動の場所を考慮に入れて、2日目の日程を決定した。さらに、夜の散策として夜景を楽しむことを目的に宿舎から歩いていける京都駅と京都タワーの2カ所のうちのどちらかを選択した。

「学級」「班」さらには「学級の枠をはずしたコース別集団」という異なる場面において、生徒ひとりひとりが自分で考えて選択したり、決定する場面をより多く設けた。このことはその後のアンケートからもわかるように、活動全体に満足できる結果になったように思う。



## (2) お小遣い・持ち物・服装

お小遣い、持ち物、服装に関しても、生徒が自分で決定する場面として事前学習に取り入れた。お小遣いは『お小遣い獲得大作戦』と名付けて、生徒ひとりひとりがそれぞれの活動全体を考えて、必要と思われる予算を「予算要望書」にして保護者に見せ、決裁をもらう方法で決定した。そして、修学旅行後は「決算報告書」を同じように作成した。

持ち物と服装についても、生徒それぞれが自分が必要だと思う物を考え、書き出し、準備までできるようにした。特に服装については5月下旬の奈良・京都方面の気候や気温、天気予報などを調べ、私服も含めて適切な服装を検討した。私服も良いということで生徒は最初喜んでしたが、最終的には、3日間ともに制服を着用した生徒は全体の7割、2割は2日目だけ私服や制服の上に私服の上着を着用した。そして3日間ともに私服を着用した生徒は1割だった。

、まとめ

1、生徒のアンケートの結果から

(1) コース別活動について

- ・ほかのクラスの人と行動できてよかった。
- ・コースを選んでよかった。
- ・時間がもっと欲しかった。

(2) 班別活動について

- ・自分たちで力を合わせて協力できたのがよかった。
- ・団結できた。
- ・いつもと違う友人の面が見られた。
- ・普段あまりしゃべらない男子と話ができた。
- ・男女別班でもよかった。
- ・自分たちだけで回れて自身がついた。
- ・自分たちで決めることがよかった。
- ・男子のいい点がわかった。
- ・ハプニングもあったりしたが協力できた。
- ・計画したが行けないところがあり、もっとよく計画をたてればよかった。



クラス別活動



コース別活動

(3) クラス別活動について

- ・クラスごとの活動も必要だ。
- ・貸し切りバスなのでよかった。
- ・クラスの良い思い出になった。
- ・クラスの仲が深まった。

(4) 奈良の宿舎(旅館)について

- ・風呂が広くていい。
- ・大人数の部屋で楽しかった。
- ・和室なのでゆっくり眠れた。
- ・大人数なのでうるさかった。
- ・一部屋の人数が多すぎる。



奈良の旅館で

(5) 京都の宿舎(ホテル)について

- ・きれいで豪華だった。
- ・オートロックがめんどろだった。
- ・ベッドでよかった。
- ・リッチな感じがした。
- ・二人でゆっくり寝られたのでよかった。
- ・ユニットバスがよかった。
- ・ユニットバスにとまどった。



京都のホテルで

(6) 『お小遣い大作戦』について

- ・予算を立てたり、使った金額を覚えておくのがめんどろだった。
- ・自分で金額を決められてよかった。
- ・要望した金額より多くもらえた。
- ・いくら必要なのかよくわかった。
- ・親と話したので、あまりうるさく言われなかった。
- ・計画外の出費にドキドキした。

(6) 服装について

- ・選択できてよかった。
- ・全員制服のほうがよかった。
- ・制服か私服か統一して欲しかった。
- ・気温に調節できてよかった。
- ・私服はいけないと思う。



班別活動からホテルに到着

2、保護者のアンケートの結果から

(1) 活動について

- ・計画をきちんと立てて、活動できていたようだ。
- ・コース別、班別、学級別といろいろな活動があってよかった。
- ・ハプニングを乗り越える力がつき、自立の第一歩のようだ。
- ・自主性重視がよい。

(2) 発表について

- ・楽しそうに満足している様子があった。
- ・声が小さかった。
- ・写真がもっと見たかった。
- ・よくまとめられていた。
- ・全員が発表していてよかった。



夜景を楽しみに京都タワーへ

(3) 宿舎について

- ・大部屋が修学旅行らしくてよい。
- ・リッチな気分を味わえたようでうらやましい。
- ・二人部屋でよかった。

(4) 『お小遣い大作戦』について

- ・計画的に使えた。
- ・無駄遣いをしないで、大切に使った。
- ・上限を決めて欲しかった。
- ・家族で話し合い、何に使うのかよくわかった。
- ・残金を返金してくれた。
- ・残金を戻してくれない。



クラス別活動

#### (5) 服装について

- ・子供に決定をまかせても安心、ということがわかった。
- ・制服を選んでよかった。
- ・本人が考えるところがよい。
- ・制服がよい。 ・私服がよい。 ・統一してほしい。

### 3、成果と課題

「自己決定の場面を取り入れた修学旅行」というテーマから修学旅行をとらえてみると、すべての活動が、生徒にとっては大切な決定の場面であるように思えた。また、修学旅行での生徒の自己決定力は、それまでの学校生活における諸活動全体から培われたものと思われる。

生徒たちが1学年のときの冒険活動で、登山の難易度を自己決定した経験が2学年での自然体験学習でのクロスカントリーのコース選択にも生かされていたり、社会体験学習のポスターセッションでの反省が、修学旅行で生かされていたり、学校行事だけを考えても、生徒が自ら考え、判断し、行動できる能力や態度が養われていく様子を感じることができた。

アンケートからは、生徒たちは自分で考えて決定していくことの大変さを実感しながら、自分が決定したことに満足し、その結果として、責任ある行動や充実した活動につながった様子がうかがえた。例えば、奈良・京都の名所情報、交通情報をガイドブックや地図などから情報収集し、時には他のクラスや班との情報交換を行い、見学場所を吟味して選ぶことができた。また、服装を選択する際にはインターネットで修学旅行の期間の天気情報を調べ、その中から自分たちに必要な情報を選択し、自分たちで旅行を作る楽しみを味わうことができた。

保護者のアンケート内容からも、親子関係の再構成がうかがえた。保護者は子供が決定していく過程を見守りながら、修学旅行により一層関心をもつようになったようである。最初、子供たちが正しく判断できるのかどうか不安を感じていた保護者も、親子での話し合いを持ち、お互いの考えを伝え合う中で、子供が自ら判断したことに納得し、そこから子供の成長を感じたようである。

修学旅行の学習を進めるにあたって、生徒たちに十分考えさせ、その意見を学級から学年全体へとまとめ、さらに学校の取り組みとしていくこと、また学校と保護者とお互いの考えや意見を伝え合いながら、よりよい修学旅行を作っていくことの大切さを感じた。

今後の課題としては、修学旅行において可能な範囲で、生徒が自己決定できる場面をより多く取り入れ、さらにその過程を工夫していくことが挙げられる。そのためには教師側が生徒に与える情報の整備、そしてその情報の伝達の仕方等、ガイダンスの機能をより一層充実させることが必要である。

最後に、この修学旅行での学習から得た自己決定する力が生徒たちの今後の進路選択や、卒業後の生き方においても、大きな力となることを期待したい。